

晴れてもじっとしていると寒い日です！



霜が降りた寒い日でしたが、風がない陽だまりはホットする暖かさ。陽だまりを求めながら、森を巡りました。昼食は池の畔、エネルギーを補給したら、すぐに午後の部。2時半の終了でした。

まだ、花が咲いていました



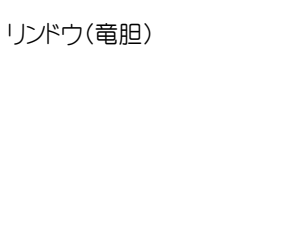
セイヨウウツボグサ(西洋韮草)



ヒメジオン(姫紫苑)



ヤクシソウ(薬師草)



リンドウ(竜胆)

落ち葉の風情も樹種によって



ミズキ(水木)



コナラ(小櫨)



ホオノキ(朴木)

実を確認



ツルリンドウ(蔓竜胆)



ガマズミ(莢迷)

加藤さんの庭に咲いた
ツルリンドウの花



市民の森で咲いたところを見
たかったですね。(井村)

その他:
サルマメ(猿豆)
アオツヅラフジ(青葛藤)
ミヤマガマズミ(深山莢迷)

観察した昆虫

- ・ナナフシの仲間(動きが悪い)
- ・テントウムシ (池トイレにいっぱい)

オオムラサキ物語 続編 (井村)

いました！ いました！
毎回観察している頂上広場下のエゾエノキの根元。落ち葉
を拾ってみると「おー、いました！」



広場下 4頭、
南コース道下池寄り 3頭
南コース道下 2頭
南コース道脇 2頭
計 11頭

上の矢印の幼虫はまだ緑
下の矢印の幼虫は茶色
写真(矢崎)

南コース道下2カ所は緑と茶の個体が混じる。

オオムラサキ物語 続編 (馬場)

“幼虫たちの冬支度”

今日の吉田山は晩秋。
木々の紅葉も終わりがけの中、エゾエノキの葉だけがまだ緑色ですが、幼虫たち(3
令～4令)は越冬の準備に入りました。
□から吐く糸をガイドにして樹幹を這い下り、根際の落葉葉裏のベッドに潜り込み、冬
眠に入ります。

さて、11月の観察会で新たに確認出来たこと！

- ① エゾエノキの見つけ方:周りの落葉樹に比べ紅葉が遅く、この時期葉が緑色で
残っている樹は、本種と桑くらいなので目立つ。
- ② 観察コース周辺で見つけた数本のエゾエノキで幼虫を探したところ、全ての樹
から見つけられたことから、吉田山山域には広く分布している(普通種か！)。
- ③ 樹を下りる時期の幼虫の色は、緑色から褐色まで個体差がある。
- ④ 幼虫は糸を樹幹に吐き付けながら、その糸をガイドに根際まで這い下りと思
われるが、それらしき糸が太陽光でキラキラしているのを観察できたので、
来年はぜひ幼虫が樹幹を這い下りつつある状況を観察し、糸も確認したい。
- ⑤ この時期まだエゾエノキの葉はほとんど落葉していないため、幼虫は根際にあ
る他の樹木の落葉葉裏に見出されるが、その後落葉してくるエノキの葉裏に移
動するか？経過観察したい(東京近郊での経験では、ほとんどエノキ葉裏で見
出される)。

落ち葉から樹木を知る

(葉の大きさは実物とは異なります)



エンコウカエデ(猿猴楓)
市民の森での初観察



カラコギカエデ(鹿子木楓)
ウリカエデ(瓜楓)の可能性もあるが、決め手に欠ける。来年花を見ましょう!



エゾエノキ(蝦夷榎)
葉柄から3本の葉脈が出るのが特徴。木の根元でオオムラサキの幼虫を見つけました。



クワ(桑)
ミトンのような形は虫食いではありません。クワの葉は2裂、3裂いろいろです。葉柄から3本の葉脈が出るのはエゾエノキと同じです。今は葉の大きさが違いますが、春の葉の出初めは区別が難しい。



ヤマナラシ(山鳴らし)
葉柄が扁平でした。それで葉が揺れやすく、葉が固いので風が吹くと葉が当たる音がするのが名前の由来。



イタヤカエデ(板屋楓)



ヤマモミジ(山紅葉)



ダンコウバイ(壇香梅)



カスミザクラ(霞桜)



ウワミズザクラ(上溝桜)
枝ごと落葉しています。同じ場所でイヌザクラもあるといいますが、イヌザクラの可能性がありますが? 枝ごと落葉は同じです。



アブラチャン(油漚青)



ウリハダカエデ(瓜膚楓)



ウダイカンバ(鵜松明樺)



シラカバ(白樺)

フサザクラ(房桜)
カメバヒキオコシと同じ亀葉してる!



ヤマハンノキ(山榛の木)



なんだろう?
クマヤナギかな? もしそうなら、初観察。



なんだろう?
ノブドウも3裂しないこともあるというので、ノブドウかな?



コシアブラ(漚油)
この季節、この色の葉を捜せばすぐに見つかります。この写真は葉が3枚ですが葉は5枚の掌状複葉です。



コナラ(小櫓)
葉柄があるからコナラ